



私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「リスキング(学び直し)より小中高教育にチカラを」

このところ「若手社員」を卒業してからずい分と時間のたつ幹部社員を念頭に「中高年世代をデジタル人材に！」とする風潮が高まってきました。いわゆるリスキング(学び直し)を行うことで、直近の技術革新やビジネス環境の変化から距離を置きがちな昭和世代社員に若手社員と対等に渡り合えるだけのITリテラシーの習得を促して業務システムやAIを使いこなして生産性向上にあたって欲しい企業の要求があります。

現在の中高年も、かつては時代の先端のテクニックを駆使して生活していました(笑)電気製品を購入すれば配線から機器設定までプラモデルを組み立てる要領で手作業は苦に感じませんでした。それがLINEの設定すら複雑で面倒な対象に見えてしまい、スマホは通話で十分とさまざまなアプリを使い倒す気力すら湧いてこないのです。

そんな冴えない窓際手前のシニア層でも、超一流大卒だったりするから人の世は面白いものです。わずか10数年前までエリート人材としてもてはやされた社員がスマホを使いこなせず、パソコンで動画編集もできない七不思議はどうしたことでしょう。

大学入試では、試験内容もレベルも参考書も教科書すら50年来ほぼ変わりません。かつて厳しい受験競争を勝ち抜いてきた人材でも政府の主導するリスキング(学び直し)でもうひと踏ん張りしよう、と奮い立つ人は少ないと思います。「年を取ることはそういうことなのだ」と気づきます。この国には中高年の再教育よりも、現役の小・中・高・大学生を対象にしたIT・AI教育こそ重要だと思うのです。そうすると学校の先生の仕事がどんどん増えて行きます。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。これより3月31日まで、2026.3卒生の採用活動を継続しております。
新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎